今月の読み物

敬老の秋に「再びの学問のススメ」

高弁商店
山川陽子
第 7 班

年を取っていく自覚は否応なく周囲からの圧（他人からの指摘、わが身の身体的な衰え）から知る事となる。時の流れに逆らっても無駄で、久しぶりに会う友人知人の姿、話に自分を重ねるとさらに頷いてしまう。時には、以前から足を引きずっていた友人がさらに不安定さが増してつい「痛そうだね。大丈夫？」と聞くと大きく否定して「主人が『歩き方、良くなったね、元気になったね。』と言ってくれる。」と話す。私は言葉ではそれは良かったと言いながら心の中では『優しい旦那でうらやましい。』と思うだけである。そして老いていく自分達が最も恐れるのが、ぼける事、である。

大学の先輩にぼけを研究している人がいて、前頭葉を使え、と言う。前頭葉とはとネットで検索すると→大脳の前方に位置し、思考や感情コントロール、意思決定などの「人間らしさ」を司る部位と出る。そして前頭葉が衰えたときの影響はとさらにネットで検索すれば、

①感情の我慢ができず些細なことで怒りやすくなる。

②物事を考えるのが面倒になり新しいことへの挑戦をしなくなる。

私は古い友人達と同様に新しいこと、又は昔にやっていた事に再挑戦しようとする。これがなかなか大変である。度々つまずいてしまう。そして何に挑戦しても上達しないし続かないし、自己嫌悪にもなる。

学校に通っていた頃はどうして頑張れたのだろうと考えてみた。幼小中と学校が楽しくて通っていた。いじめにも遭ったし不良もいたけれどとにかく楽しかった。中２になって、勉強ができる人達の雰囲気が変化したことを覚えている。郊外ながら大規模校で越境して来る人も多く、男子が「上田（旧姓）さん、数学何点でしたか？」と聞きにきてげんなりし、不良が「俺、昼から帰るから先生に言っといて」と２階の窓から出ていくのを見送り、「○○先生っていい先生だよ、『名前がきれいに書けました。』と１点くれた。」と白紙の答案を見せる友達。学習に力を入れる層と全く関係ない生徒と二分していくのを感じていた。これは東京の公立中学の教員の時も感じていたことだった。宿題を出さないと点数、順位に、影響がと言っても反応しない生徒達の存在に驚く教育実習生達に、学習に興味を持たせて、せめて楽しい学校生活と感じさせてあげてと言ったものだった。

私の学習への意欲は負けず嫌いの気持ちだった。学習（学問）に対しての姿勢が不純であったと思う。大学在学中に理系から文系に転向してしまったけれど、リタイアしてからは、数学や物理に対しての楽しい好奇心を思い出す。鏡に全身を写すには身長の２分の１の長さの鏡で良かったり（中２の理科の先生）、中学時の三角関数は面倒だったのに、長さ１の単位円で三角関数をグラフで表すとすごく簡単になったり（高校数2B）の驚きは忘れられない。そこで、後輩の数学科の友人から同窓会で始める数学び直し講座に勧誘された時、うっかり受講とした。言葉（錯角、線対称、有理数、、、）の理解と作図がうまく

いかなくて慌てたり、若い受講仲間（私が一番年寄り）に「ねえねえ、どうやるの？」と騒いだりで大変迷惑をかけている。誘った後輩は後悔していると思うが楽しい。

私は年取った時の挑戦分野を学問（学習）学び直しが身近と思い実行の努力を始めているけれど他の分野を挑戦することはどうなのかと思う。想像し易いのはスポーツ分野と芸術分野だ。スポーツ分野は優れている方々のおかげでわりと分かり易い。優れている方々をオリンピックなどで目にする事が多くかっこ良く目立つし指導者になられてもご自分の専門分野をなんらかの形で一生続けていかれるのだろうと思っていた。ところが８年前の2018年４月、日本女子柔道の興隆期を導き『女三四郎』と呼ばれてソウルオリンピックで銅メダルを手にした山口香氏の講演で司会を務める友達から講演後に山口氏と２人で昼食を食しながらお相手をしてくれのヘルプを頼まれた。えー、勘弁して、だったが困っている友達を見捨てられずに講演＆お食事のお相手をしたがとても有意義なひとときを過ごせた。

山口氏のご講演は逐一覚えてはいないけれども、二つの内容は記憶にある。

①オリンピック種目の柔道だが日本女子柔道は世界で遅れていてフランスなどから非難されて女子柔道が日本でもできるようになった。自分（山口氏）がラッキーだったのは東京都の体育の先生達が公式試合の時、番外の形で「君もやるかい？」と声をかけてくれて、強い男子生徒と組めた。1980年代の日本女子で当時、実践で練習できたのは自分だけだった。

②アスリートが長い人生の中で最も輝いているのは比較的に若い時だけである。その後の長い人生をどう過ごすかがあまり考えられていない。明治期に新しい柔道を確立した嘉納治五郎は柔道家のアスリートとしての生活後の人生設計（整体師）を考えていた。他のスポーツでもその後の人生設計を社会全体で考えるべき。

芸術分野はどうだろう。ボケ防止に老いてから始める、昔やっていたことを再び挑戦する。多分ほとんどの人が一番入って行き易い分野だ。音楽も美術もやったことがある。あるいはずっとやりたかった。書道も生け花も手芸も料理だって芸術と言える。講座や講習が今もたくさん開かれていて音楽の種類だって数限りなく存在する。〇〇ダンスは芸術？スポーツ？

私が年を取ってから行い始めたものには①カラオケ教室、②フレイル予防ダンス、③韓国語講座、④古典講座（最初が伊勢物語、次に竹取物語、新古今和歌集、今は何回目かの源氏物語）、⑤数学学び直し講座、⑥囲碁講座、である。②はコロナ後に消滅。どれもついて行くのに精いっぱい。だがそれがなぜか楽しい。中学高校の時に受験勉強に大変だった人には改めましての勉強がボケ防止に向いているかもである。そして私はもともとの受験勉強開始が遅かった（高校受験が中２の冬から大学受験が高２の冬から）が受験には間に合った成功体験も意欲的には味方である。

『少年よ、大志を抱け』『鉄は熱いうちに打て』『少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず』いちいち内容にうなずく昔からの言葉である。遅くに始めた者（老いてからの挑戦も含む。）はダメと言うのは可哀そうである。しかし確かにスポーツや芸術は職業として目指すには早く始めるしかないらしい。私が中学の頃に尊敬する偉人はと聞かれると、『福沢諭吉とルイ・パスツール』と答えていた。福沢諭吉（慶応義塾大学の創設者であり『学問のススメ』の著者）とフランスの医学者ルイ・パスツール（細菌学の権威で予防接種やワクチン接種の礎を築いた人）には私が気に入っていた共通点ある。それは２人とも学問、つまり勉強（字を書けるようになる）を始めたのが大変遅く、10代の半ばからであった。

どの分野であっても学び始めることに遅すぎるはないと思う。私は娘に音痴だねと笑われながら町会のカラオケ教室に通い、毎朝新聞のパズル欄の数独問題を切り抜いたコピーを見てうなり、囲碁のオンラインゲームに何回も負けて首をかしげ(勝ち負けは教えてくれるパソコンゲームだが、何故負けたかは教えてくれないのが難点)、何年学んでも、ビビンバ・カンジャン・トウプなどの食べ物関係しかわからない韓国語、数学学び直しでは帰宅してから作図の再現ができずに悩み・・・　**楽しむだけでもボケないですか**・・・と誰かに聞きたい。

- 数独パズルのルール
  空いているマスに1から9を入れる。
  縦の列、横の列、3×3のブロックに1から9までの数字が入る。
- このパズルの良いこと
  安あがり。
  この資料は私の家の新聞の切り抜き。100円ショップにも100円で売っている。
- 困る点
  思考の為、書いたり消したりするのでコピーは必須。コピーは裏が写るので汚い。
- 特に困った点
  綺麗な白い紙に大きなマスで解を求めれば早く解ける。

